

第5回

(仮称)多可町生涯学習センター建設基本計画

策定検討委員会

## 会議録

《要約版》

事務局 多可町生涯学習課

## 第5回(仮称)多可町生涯学習センター建設基本計画策定検討委員会 会議録

- 日 時 令和3年10月13日(水) 午後7時～午後9時
- 場 所 八千代コミュニティプラザ 大ホール
- 出席者 18名/24名(敬称略)
- ・委員長 小嶋 明
  - ・副委員長 宮崎 和明 松本 壽朗
  - ・委員 熊田 正博 大上 和徳 南畝 香野子 門脇 昌弘 布一 和也  
清水 賢彦 山口 達也 殿井 瑞穂(代理:県立多可高校 吉田宏之 教頭)  
植山 晶子 岡本 美紀 吉川 清 杉本 真 山本 和樹  
萬浪 佳隆 近藤 なぎさ
- ・事務局 地域共生担当理事兼ふくし相談支援課長 藤原 正和  
生涯学習課 課長 檜本 一郎  
生涯学習課 副課長 梅田 一志  
教育担当理事兼教育総務課長 藤本 志織  
教育総務課 図書館長 畑中 俊裕  
教育総務課 図書館司書 依藤 啓子
- 議 題 (1)次第3 委員によるプレゼンテーション  
(2)次第4 報告事項  
(3)次第5 ワークショップ
- 会議結果 (1)各種団体の委員から、一人あたり5分程度、生涯学習センターに対する要望や意見などをプレゼンしていただきました。  
(2)図書館協議会から図書館基本計画(案)について報告しました。  
(3)委員が4グループに分かれ、グループワークを行いました。  
グループワークはワークシートを用いて、生涯学習センターの具体的な使い方を想像しながら、施設のビジョンやコンセプトを考え、意見を出し合いました。  
また、それぞれのグループの意見を集約し、発表を行いました

## ■会議の経過

<p>次第 1</p> <p>(事務局)</p>	<p>開会</p> <p>17名の委員が出席（※1名遅刻）。傍聴者2名。</p>
<p>次第 2</p> <p>(C副委員長)</p> <p>(事務局)</p>	<p>あいさつ</p> <p>こんばんは。10月に入りまして非常事態宣言が解除になったため前向きに活動できることが嬉しく思います。</p> <p>朝の新聞に日本酒の日コンサートが載っていました。この30年近い活動をまとめていただきました。日本酒の日の加藤登紀子さんのコンサートには、バックコーラスがありますが、十数年続くバックコーラスの大部分は町外の方です。これは生涯学習活動の成果の一つではないかと思っています。生涯学習社会の進展には、町の進展につながる活動があり、それこそが生涯学習活動だと思っています。練習では中プラザを使いましたが、夜間には正面から入れず西側入口から入り、町外の方は大変わかりづらいと言われます。公民館から中プラザに変わり、貸館としての機能は充分ですが、生涯学習を支援するには十分の体制にはなり得ていません。その意味から、生涯学習センターはより必要なものではないか、と改めて思いました。</p> <p>また、翁田大勢君が読売巨人軍に入団することになり、大変嬉しいことだと思います。翁田選手が来年、阪神巨人戦でマウンドに立ったときには、我々はどう応援しようかな、というふうにちょっと悩んでおります。</p> <p>この検討委員会ではそういった悩みのないように、1つにまとまって、あるべき形の話がさらに進むように期待しております。とりわけ公募委員さんは、どういう生涯学習活動をしていくのかも頭に入れて参加されていると思います。そういったことも念頭に置いて、議論を進めていただければありがたいと思います。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>次回検討委員会日程について報告。</p> <p>第6回検討委員会を10月28日（木）に多可町図書館会議室で実施します。</p>
<p>次第 3</p> <p>(委員長)</p> <p>(事務局)</p> <p>(A委員)</p>	<p>委員によるプレゼンテーション</p> <p>あらためまして皆さん、実のある会になりますよう、ご協力をお願いいたします。</p> <p>今日は団体選出委員のプレゼンのパート2です。プレゼンから新たな提案や要望等を、お示しいただけることを期待しております。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>団体選出委員からのプレゼンテーションをいただきたいと思います。</p> <p>団体の活性化という観点でお話をいただけたらと思っております。</p> <p>区長会をほとんど持てておらず、役員では少し話もありますが、生涯学習センターの話まで持っていくことが難しい現状です。区長会としての要約がきておらず申し訳ありません。</p> <p>私自身の考えになってしまいますが、生涯学習というところで、60歳前後の私た</p>

ちの年代の考えです。メインは図書館だと思います。若い年代は電子図書等で、ネットで簡単に本が読めてしまい、画面での読書が多くなっていると思います。私も仕事をリタイヤしてから、最近ようやくまた実際に本を開いて読むようになり、実際の本も充実して欲しい、図書館の方にも足を運びたいと思っています。

生涯学習に関しては、子供たちに有意義な何か提案ができるような活動をしていただければ、と思います。児童館を開けていても、平日なかなか子どもたちが来られない状態があります。まして現在4時までの開館というコロナの影響もあり、もう子どもたちが帰って、児童館の前を通るときにはもう閉館している状態です。子どもたちへの何か充実したものができたら良いと思いますし、プログラムを作るのでも、財政的には非常に厳しいですが、兼務ではなく専任の方が色々なアイデアを発信していただければありがたいな、というふうに思っております。

(B委員)

身体障害者福祉協会も、生涯学習の話題はあまり出ませんでしたので、私自身の思いを発表いたします。今はコロナで何もしておりませんが、生涯学習センターができれば、そこを利用して何とか色々なことをしたい、と考えています。例えば、今は外でグラウンドゴルフをやっていますが、同じゴルフで飽きてマンネリ化してしまって、人数も揃わない状況です。他のこと、ゲームとかそのようなものができる場所も設けて欲しいと思っています。

私自身の意見ですが、自販機食堂を作って欲しい。また、舞台の設置で総会等ができる施設にして欲しい。機械も買ってもらわないと駄目ですが、カラオケでもできるような場所を設けて欲しい。これからの色々なことを考えて、1つ1つ追加して欲しいと思います。

(C委員)

1つ前の委員会で、場所選定のときに話が出たと思いますが、中区で新しい商工会館を建てることで進めています。生涯学習センターにも関係するので、その辺りの話をさせていただきます。

新庁舎が建ってから建物が空きましたので、教育委員会が入っていた一部を借りて、商工会の事業を行っています。ただ町から、耐震基準が持たないからと、将来的に施設を取り壊す話も聞いており、そういう中で商工会では、取り壊される前に商工会の事業が滞りなく行えるように、その前に新しい商工会館を建てよう、となり、3年前から会館建設特別委員会という組織を設置し、協議を重ねてきました。去年はコロナの影響で、コロナ関係の補助に注力していましたが、去年の秋頃からは、そんなこと言っていられない、ということで建設について準備しています。

最初に建設にあたって、商工会館のコンセプトをまず立ち上げようと協議した中で3点あります。Unity、団結とか結束。商工会や事業者、地域の皆さんと一緒にあって地域を盛り上げていこうと。もう1つはパワースポット。商工会に行ったら元気が出るとか、ちょっと悩んでいたけど商工会に行って悩みが解消されたとか。もう1つはシンプル&チャレンジ。あまり余計な施設を付けなくて、商工会の機能に特化したような施設にしよう。

そして、新しい事業を始めるにあたって十分な機能が備わっているような施設にしよう、というコンセプトの元にいろいろと協議して、こういう部屋、設備が必要という協議をして、また設計士から設備と坪単価を元に予算規模もだいたい出していただき、その予算内での提案をしていただく。そして各地の設計事務所から3社プロポーザルの申し込みがあり、8月20日に審査会を行いました。商工会はそうい

うことは初めてなので、役場財政課から指導をいただき審査会を行い、設計事務所が決まったところです。現在は基本設計に入っており、8割程度決まって、この間の理事会で了承は得ております。この後、実施設計、建設業者の選定は競争入札ということで建設に入っていく予定です。

商工会組織として生涯学習センターに対する要望というのは、とにかく民の力を利用して欲しい、ということです。例えばカフェができる、そしてカフェができたからと近くの喫茶店が店を終うことがないように。例えば本屋さんは、Amazonとかもあって図書館のせいではないと思いますが、2020年には全国で21,000ほど店舗がありました、現在1万店を切るぐらいです。そういう本屋さんも生かしてあげる配慮ある運営をして欲しい。例えば、新規事業で英会話の教室を開きたい人もあり、音楽教室を実際に開いている方もいます。生涯学習のカリキュラムで開いてもらっても良いですが、そういう人をできるだけ利用して運営して欲しい、ということが商工会組織としての要望です。今は商工会館のことでいっぱい、議論する時間がなかったため、商工会としてはそれぐらいです。

私見としては、町の規模に合った建物。とりあえず建設時は合併特例債で結構国のから負担がありますが、その後何年か経った後の補修や修繕費を見ていると、学校やベルディーホールも結構なお金が必要ということがあり、20年後、30年後に補修費を負担しなければならないと思うと、コンパクトでも高機能な設備にして欲しい、という希望です。

ベルディーホールが建つときに、同様の委員会があったと思います。そのときに市民会館的なホールではなく、芸術や音楽に特化したホールにしようと。そのとき委員長が一番上で、僕ら若い者はそういう意見で。それが良かったのではないかと、何年か経っても思っています。

だからこの図書館についても、何か1点集中。例えばグルメの本はものすごく揃っているとか、スポーツの本はあそこに行ったら揃っている、としてはどうでしょうか。将来的には、今のGPSやドローンの発達からすると、図書館に1つドローンの発着基地を持っていれば、県内の図書館をネットワークで結んで、たまにしか貸し出されない本は、パソコンでオーダーしたら3日後には無人で届く、というようなシステムになるのではないかと、思っています。

建設に関しては、アスパルの周辺だと南側でしょうか。山があつて杉原川があつて、北には妙見山、周辺には緑も多いので、その辺を十分に盛り込んだような施設。また、赤十字病院やアスパルのスポーツ施設もあり、車も結構通るところなので、老若男女が集えるような施設づくりを目指して欲しい、ということが希望です。コンセプトとしては、交流、学び、癒やし、そういうことを思っています。

(事務局)

生涯学習推進協議会から県立多可高校の校長先生に出させていただいておりますが、本日は代理として教頭先生からお願いいたします。

(D委員)

本校では今回の運営の流れに沿って、7月30日にワークショップが開かれました。ワークショップを担当した教員と生徒から感想・報告をすべきことをまとめてきていますので、そのこととお話します。

本校の多目的ホールを使いまして、ファシリテーターの方にお世話になりながら、この生涯学習センターの計画について参画をしていく、そして多可町の将来像を考えていく、その一翼を担うというようなところに組み入れていただいたと思

ます。

資料にもまとめられていますが、7月30日に2時間ぐらい使って、生徒は9名参加してのワークショップを行いました。ワークショップの感想ですが、生徒たちが多可町の未来づくりに関わったというのは、やっぱり貴重な体験であり、大きな自信になったようです。生徒の声からも、参加した教員からも聞いています。特にファシリテーターには、会をスムーズに進めるにあたって上手くその役割を果たしていただき、リモートも上手く進められていました。

ただ、一方で少し問題と感じられた点が、話のスケールが大き過ぎて、高校生にどのような役割が求められているのかが少し分かりにくいのではないかと。何でも良いから高校生から意見を聞きたい、ということは少し荷が重いのではないかと。まず現状報告とか実現への道筋、目途。或いは、進めていくにあたり生じる制約、つまり可能・不可能、望ましいこと・避けるべきこと等は、極力明確にさせていただいて、提示してやるのが大切だと思いました。ファシリテーターが、単なる司会者ではなくて、そういった部分を担いながら進めていただいたことが上手くいった要因だと思いますが、一方で話のスケールが大き過ぎるかな、という点は、今後の課題であろう、と担当者から聞いています。今後の道筋を大人がしっかり示してやるべきだということが肝要かなと思います。

(事務局)

スポーツ振興委員会からお願いします。

(E委員)

生涯スポーツ推進委員会の中で、若い世代の人たちの話と、町に関係ある人の話が耳に入りましたので、それをお話したいと思います。

生涯学習センターの計画が出ていますよ、という話をしました。図書館の話が最初から出てきますけれども、図書館の他に沢山出てきました。元は確か、多可町図書館を作るような協議会の話から出た話だと思ったのですが、そこから生涯学習センターが横から流れ出てきたという経過があると思います。また検討委員会では、最初から図書館という話が出ましたが、各地の図書館に行かせていただきました。どこの図書館も立派であったり、設備があつたりします。ただ、その自治体の事情等もあり、例えば1億で建設したら、毎年1億ずつ出費しなければならない図書館も確かありました。

多可町の情勢を考えたときに、皆が箱物は要らないと言います。それが今の若い子の正直な気持ちです。私は要ると言います。何故かという、皆が集う場所が要るだろうと思います。だから生涯学習センターの中の図書館の位置付けでいいと思います。ちなみに、もともと僕が、小学生時代から読むということは大切だと思うので、小学校・中学校の図書館を充実させて欲しいと思います。学校の先生も言い辛いから言わないですが、私が学校の役をしておりますが、常にそう言っています。学校の図書ももっと充実すれば、と言います。予算的なことは分からないのですが。

だから図書館を作るなら小学生・中学生に特化したものを。例えば、若い子は西脇や小野の図書館へ行っています。だから小学生・中学生は行けないので、やはりその子供たちが使えるような図書館にしてはどうか、と話しました。年配の人は難しいかもしれませんが、年上の人や普通の人、各地の図書館で取り寄せてもらう機能を充分に使ったら良いのではないかと思います。また、変わった図書館にしたなら、その方が多可町の予算にも合うでしょうし、子育てと言うならば、その辺からやっ

てもらわなければならない、と思います。他市町と同じようにお金を出すことはできないので、他と同じように内装や本がどれくらいあって、という図書館寄りの図書館ではなく、何かに特化してもらわないと予算枠で持たないと思います。

どこかの図書館で聞いたのですけれども、やはり若い人の発想でやってもらえると、それなりに違う、とう話を聞きました。それは図書館を見に行つて上の人に聞いたのですが、僕らの年ではもう無理ではないかと。若い子が色々な情報によって本を集める。ボランティアにしてもらわないと合わない、という話を聞いて、もっともだ、と私も思いました。

多可町の図書館の現実の話をしたら、館の人は怒ると思うのですが、スポーツ 21 の会員の方が、法律の本を借りに言ったら古くて使えなかった、と言われました。本は高いから無理、と言いましたが、置いておけばまともな本を置いといてもらわないと困る、とも言われました。

それから、塾の先生が、私はみらいえに行っている、という話をしていました。そういう外へ行ける人は、外に行けば良いと思います。でも、行けない人がいるのですから、その人達のためにできるのであれば、その図書館はあったら良い、と思います。第一私たちも年を取って他所へ行けなくなって、何かを読みたいと思ったら一番近いところに行くのですから、そういう意味での図書館を作って欲しい、と思いました。

それから、我々の団体に集会・集まりをしようという時には、やはり場所がない。場所がないから、そういう場所を作って欲しい、ということが団体の意見です。

以前、喫茶店かどうか、という話もありましたが、やはり今の時代、お茶を飲みながら話をするとか、本でもその場で読んで探したい、という話を聞きました。正規の喫茶店ではなくても、自分で勝手にする入れる分にはコロナも関係ないと思います。そういう、くつろげる場所という感じの図書館にして欲しいと思ってきましたが、今日の資料にもしっかり書いていました。やはり新しい図書館、という感覚でやっていただいたら、町民も納得すると思います。

他所と同じものを同じように作ってもたぶん負けますし、結局、利用者が少なくてどうこう、という話になりますので、やっぱりみんなが利用する、本当に利用する図書館なり生涯学習センターを作っていただければ、と思います。別に大きいものでなくても良いので、それぞれが使いやすい施設を作っていただいたら、と思います。

(委員長)

今回で全員のプレゼンを終わりました。次はセカンドステージになるということで、現段階でどう工程が進んでいるのか、どんな意見が出てきて、こういう議論をしている、ということをもとめて、各委員が所属団体に説明ができるように、あるいは集まる機会がなければ書類で報告ができるような工夫をして、少しでも所属団体の人に意見が伝わるように、或いははその議論の中身が伝わるように、事務局と相談をして、皆さんに配布させてもらおうと思いました。

今日は沢山の意見をいただきました。それをまとめて、今日お手元にある配布のパート2として取りまとめていきたいと思っています。

次第 4

報告事項

(委員長)

次に図書館基本計画の報告をさせていただきます。

図書館協議会で何回も熱い議論をしていただいて、ほぼ取りまとめができてい  
る、と聞いていますので、図書館協議会の委員長でもあります副委員長から報告  
をさせていただきます。

(C副委員長)

資料1の図書館基本計画(案)ですが、未定稿でありまだ完成品ではありません  
。ただし、章立や骨組みはあまり動くことはない、と思っております。あと  
は、文章表現とかを触る、というぐらいで理解しております。

この「図書館のあり方に関する提言」は平成24年の3月に一度行っており、こ  
の計画の中で出たものを叩き台にして、アレンジした形で進めております。令和  
3年度は、数回の図書館協議会・分科会という形で意見集約・会合を持ちまし  
た。11月には完成させなければいけない、というようなタイムリミットがありま  
したので、ほぼ毎月協議の場を持った形になります。その間には福崎や三木の図  
書館等の視察にも行っております。

(資料1に基づき説明：以下、要旨のみ)

- ・平成16年：中町図書館がコミュニティセンターの跡地を利用して開始。  
翌17年には3町合併により多可町図書館名前を変えた。
- ・その後6～7年経って提言をまとめて、更にその後7～8年経った。  
この図書館の歴史そのものが非常に短いので、8年とプラス8年と倍の時間が  
経っている。だから、前の提言を全面的なリバイスをせざるを得なかった。
- ・グラフ等の資料については、長いスパンの中で経過がよく分かるように作り直  
す作業を行った。その数字についても、当時の人口規模・これからの人口  
規模、利用者数の見通し等の数字はほぼ全面的に見直した。
- ・しかし骨子となるところは一緒で、中核になる部分は、新しい多可町図書館の  
理念の部分。ふれあいの舞台、憩いの舞台、そういったイメージ図を特に大事  
にしたい、と思っている。
- ・生涯学習の拠点、生涯学習という言葉は何度も出てくる。
- ・当初この中町図書館ができたときと同様に、ボランティア活動を大変重視して  
いく。住民運動型の図書館を生かしたまちづくり、というものを意識して、  
これからも踏襲していく。
- ・機能については、開架スペース、ボランティアサークル用スペース、色々な  
名称で必要なスペースについて、具体的に書き込みました。
- ・時代が移り変わっていますので、特にオンラインとかネット、色々な情報の形  
が変わってきていますので、それらに対応できるスペース・機能も新たに書き  
加えた。また、大きな側面は持続可能な開発目標。SDGs。8年前は無かつ  
た言葉ですが、私たちが目標とする図書館のあり方は、同様の理念の中で動い  
ていたの、特に矛盾もなく書き加えた。
- ・委員も、年数とともにほとんど顔ぶれが変わった。その中で、図書館の原点に  
帰ってきっちり理解したい、と委員からの意見があり、図書館法、図書館の  
設置及び運営上の望ましい基準を参考として、もう一度見直して作った。数字  
も望ましい基準を見ながら、参考資料を加えた。



(委員長)

ワークショップの前提のような話をします。

ポストコロナ社会をどうデザインしていくか、ということが大きなテーマになっています。コロナによって私たちの生活環境に新たな課題が見えてきたり、プラスになったこと、非常に厳しい社会状況、経済状況が露呈してきています。そういう中で人口減少社会を当然見据えて、そして持続可能な多可町をどう作っていくのかという、大きなポストコロナの社会のビジョンを見据えなければならないという中で、私たちはこの生涯学習センターの建設について協議しております。

意見が多々あることは承知していますが、建設基本計画を作ることは動かさない目的になっており、この線だけは外れないように議論し、取りまとめていきたいと考えます。

多可町が人口減少社会で持続可能な町を目指す中で、4年前、地域共生社会づくりということを始めました。新しい市民社会等のテーマが出てきていますが、色々な組織に属している委員さんの中で、例えば社協とか商工会というのは自前の事務局があり、しっかりした組織をお持ちです。

それ以外の組織は、事務局が行政の中にあつたとしても、それが団体事務であつて、色々な方やメンバーが日常的に集まって情報交換する場所がないという。それが本当に持続可能な町に良いのか、という原点から考えていきますと、お互いいたずらに箱物、というわけにはいかないわけです。結局、所属している団体の活動をどう支援していくか、或いは活性化させていくか、という現場の話に帰結します。

地域共生社会づくりも、活動の日常化が大きなテーマであり、やはり拠点が要る。中町幼稚園跡の子育てふれあいセンターの一角に、コークラボというのを開いています。地域共生の拠点づくりとして開いていますが、残念ながら週1回金曜日しか開けません。でも、ささやかな拠点づくりの実験です。

たまたまですが、最近、引きこもっていて外へ出られなかった方が顔を出すようになりました。色々お話をして関係ができて、コークラボならば来られる、と言って来ています。先程委員も言われたように、集まる場所がない、来てもらう場所がない。色々な団体が活動しても、情報交換が即座にできない。だから、日常化する拠点が欲しい。そのためにはどんなデザインがいいか、ということであり、結果として箱物ですが、いたずらに原則的に箱物がどうか、ではなく、とにかく皆が心安く集まって、日頃の情報交換をして、それが繋がっていく。そういう施設を目指したいと個人的には思っています。皆さんの話を聞いても、集まる場所が必要と思います。

例えば多可町の高齢化率は34%ですが、更に大事な数字として、要介護認定率・介護保険を使っている人は65歳以上で19.1%いる。その中で介助が必要な重度身障者が700人いらっしゃる。こういう重度身障者の人たちが、本当にこの町で安心して暮らせる仕組みもまだ不十分です。そういうことを皆が寄り添ってやっていくためには、絶対拠点が要るのですね。足りなければ作ろう、ということです。ただし、財政規模や人口規模を十分配慮したうえで、専門家と共に協議をしていけば良いと思います。

	<p>先ほど商工会館の工程を説明いただきました。まさに基本的なコンセプト、理念があって、それを民の力を生かして欲しい。非常に分かりやすい話でした。そういうことが形になるように協議していけたら、と思っています。</p> <p>この後のワークショップでそういったことをお話しただいて、もう少し言えば、「(仮称)生涯学習センター」という名称が皆さんの思いと合うかをもう一度確認していただいて、議論もして取り組んでいけたらと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>(ワークショップの説明)</p> <p>ワークシートを使用して、誰が、場所、目的・コンセプト、原因・理由、内容・結果という観点から、ビジョンとコンセプトの整理を行う。資料2にこれまでの委員発言キーワードとして整理したため必要に応じて活用する。</p> <p>(各班でワークショップ)</p> <p>(各班発表)</p>
<p>(B班) B副委員長</p>	<p>誰が：みんなが。私も町民も子供たちも。 場所：生涯学習センターで、気軽集まる、集まれるがコンセプト。 理由：話をする、話ができる、そして自由に使える。 これは私見ですが、「人生充実センター」「全員集合センター」といった感じの名前で少し話が出ております</p>
<p>(A班) F委員</p>	<p>誰が：私は。 場所：生涯学習センターという名前ではなくて、「多可わくわくランド」。英語で「U-TAKAセンター」。UというのはユニバーサルのUです。 目的・コンセプト：皆さんがふれあえる、豊かに生きられる、差別のない交流の場づくりのために。 原因・理由：1人ではさみしいので。 内容・結果：友達との気軽な集いがしたい、また、合唱や読書がしたい。ということは、児童・生徒が集中して学習できる子育てセンター、団らんの方が欲しい。図書館を中心とした複合施設ということで、A班はまとめをさせていただきました。</p>
<p>(C班) G委員</p>	<p>誰が：高齢者だったり子育て世代だったり子供だったりって、全てにおいてですね、私たちはっていうところですね。 場所：生涯学習センター 目的・コンセプト：交流拠点として多文化だったり、今だと海外から来られている方たちもいるので、全てのところにおいて交流拠点がコンセプト。 原因・理由：色々な人の意見を聞きたい、情報を仕入れたい、また情報をアウトプットするとか含めて。 内容と結果：たくさんの人との対話や議論、学びがしたい。 名前のところは、「未来」が入っていたり「人」が入っていたり、そういった名前もいいんじゃないか、という案もあったんですけども、「生涯学習センター」がしっくり来るな、というところでまとまりました。</p>

(事務局)	<p>今日も色々な意見を出していただきました。またそちらも集約して整理させていただきますながら、基本計画の方に盛り込んでいく方法を考えていきたい、と思います。</p>
(委員長)	<p><b>閉会</b></p> <p>今日いただいた沢山の意見は、事務局の方で整理をして、また皆さんに戻します。特に各団体の皆さんに、何を話しているのか、誰がそんなことを決めたのか、そういう声がありますから、報告できる資料を揃えて皆さんにお配りしたいと思っています。それで、多くの方が関心を持ってもらって、交流ができて、そこに行ったら情報があって、誰かがいて。そういう本当に集える施設になるように、これからも皆さんのご意見を賜って進めたいと思います。</p> <p>本当に集まって即できるのだろうか、という不安な声を寄せてもらったのですが、こういう工程を、選挙を跨いで行うことは不思議です。コロナがなかったらこんなことはなかったのですが、答申として提言したときに、また新しい議員さんになっています。また一から説明するということが起こり得るわけです。そこでまた色々な意見が出てきたりする。</p> <p>でも、そういうことはあったとしても、私たちは建設するという基本計画を原則として守って取り組みたいと思います。色々意見が多々あることは承知していますけれども、そういう形でぜひご理解をいただいて進めさせていただきたいと思います。</p> <p>次回もよろしく願いして今日は終わりたいと思います。本当に今日はお疲れ様でした。</p>
(事務局)	<p>10月28日(木)、第6回の検討委員会を多可町図書館会議室で行います。 どうぞよろしくお願いいたします。</p>